

教育実習 A	教 授 平沢 信康 講 師 堤 ひろゆき
--------	-------------------------

1. 授業のねらい・概要

本講義は、教育職員免許取得を希望する学生が必修とされている「事前指導」「事後指導」のうち、「事前指導」を行うものである。具体的には、教育実習の意義、目的、教育実習の概要、教育実習生としての基本姿勢・生活態度、教育実習の心構え等と教科の学習指導案の作成及び模擬授業の実施・授業研究、教育実習日誌の作成など、教育実習に必要な内容について学習する。これらの学習を通して、既習の教職教養科目で習得した基礎的教育理論を確実なものにするとともに、その応用・実践に向けて授業技術や授業について演習を行い、教育実習に必要な実践力を身に付けることをめざす。

2. 授業の進め方

基本的には、学習内容を示したレジュメを配布し、講義、学生による学習指導案の作成と模擬授業の実施を中心に進める。また、模擬授業後の授業研究や学習課題に基づく意見交換等の学習活動も取り入れる。

3. 授業計画

1. 講義概要説明（オリエンテーション）	9. 学習指導案の作成と検討3
2. 中学校・高等学校の教育課程	10. 授業技術の確認1（模擬授業と授業研究）
3. 教育実習の意義と目的（教育実習の意義）	11. 授業技術の確認2（模擬授業と授業研究）
4. 教育実習の内容と計画、心構え	12. 授業技術の確認3（模擬授業と授業研究）
5. 授業技術の確認1（実践例の検討）	13. 授業技術の確認4（模擬授業と授業研究）
6. 授業技術の確認2（教材、指導方法の検討）	14. 授業技術の確認5（模擬授業と授業研究）
7. 学習指導案の作成と検討1（授業成立要件）	15. 総括
8. 学習指導案の作成と検討2	

*コンピュータ教室、体育施設で行うこともある。

4. 到達目標

- ・既習の教育教養科目で習得した基礎的教育理論が確実なものになっている。
- ・教育実習に必要な技能・知識を身につけ、教員に相応しい基本的な資質能力を身につけることができている。

5. 準備学修に必要な時間、又はそれに準じる程度の擬態的な学習内容

- ・配布資料及び参考文献の読解（30分程度）
- ・グループディスカッションや発表、模擬授業に向けての準備（1～2時間）

6. 成績評価の方法・基準

平常点、模擬授業の総合評価。

- 平常点について、課題の提出状況・内容及び学習課題への取組み態度を評価対象とする。
- 模擬授業について、学習指導案並びにこれを用いた授業実践等を評価対象とする。

7. テキスト・参考文献

小学館編『新版 教育実習まるわかり』小学館

文部科学省 中学校、高等学校の『学習指導要領』『学習指導要領解説 総則編』

保健体育：文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』2017年。

商業：文部科学省『高等学校学習指導要領解説 商業編』，実教出版，平成26年

情報：文部科学省『高等学校学習指導要領解説 情報編』，開隆堂，平成26年

8. 受講上の留意事項

学部2年生修了時の学業成績が、次の2つの「教育実習に関する学内規定」を満たしていること。

①GPA(Grade Point Average)値の総合が、2.0以上であること。

②次のいずれか一方を満たしていること。

- (1) 教職に関する科目のGPAが、2.0以上であること。
- (2) 教科に関する科目のGPAが、2.3以上であること。

遅刻・早退は、原則として欠席と見なす。